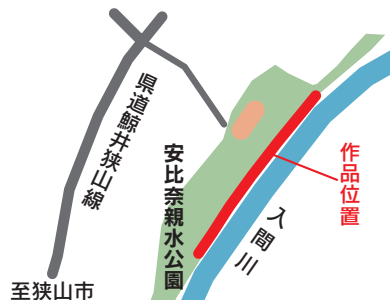


もうすぐ小江戸川越花火大会が開催される安比奈親水公園を訪れました。公園では多くの皆さんが、グラウンドゴルフなどのスポーツで汗を流していました。

入間川沿いまで歩いていくと、護岸には色の付いた小石で作られたレリーフが、約十八メートルの間隔を置いて設置してありました。レリーフの大きさは、一辺の長さが一・二メートルほどで、全部で三十三枚ありました。描かれているのは、魚・鳥などの川や河原にちなんだ生き物。また、網を持った子どもが、川で何かを捕まえようと川の中を探している絵などもあります。川沿いを歩くと、歌っているカエルやかわいらしいカップパなどの絵が次々に現れ、楽しみながらちょっとした運動になりました。



写真手前のレリーフは、魚が描かれています

## 表紙

平成17年に安比奈親水公園で行われた、小江戸川越花火大会の様子

安比奈親水公園と伊佐沼で、1年ごとに行われる小江戸川越花火大会。ことしは7月14日(土)、午後7時30分から9時(点火式=7時15分~)に安比奈親水公園で行われます。なお、荒天の場合は、15日(日)に順延になります。

当日は、メッセージ花火や最大1尺玉の花火など、約5,000発が打ち上げられます。



川越城築城550年

川越城が築城されて550年目のことし、さまざまな記念イベントが行われます

川越ならではの  
礼儀作法など

美しい金銭のやり取り

小江戸のならわし・その四



お金はいつの時代も、とても大切なものです。城下町の人々は、お金のことを「御鳥目」おちょうめくとも呼び、大切に出し入れしたものです。夏場などさっぱりとした服装の職人の皆さんが、買物で勘定する際は、懐から真っ白いハンカチに包んだがまぐちをていねいに取り出し、静かに支払いを済ませる様子が、お茶のお手前を見るような美しさでした。また、いづんどんときでも、勘定の端数まで用意して釣り銭のない鮮やかな手さばきは、恐れ入るほがありません。四、五百円の買物に一万円を出すような不用意を潔しとしなかった、昔の人のダンディズムだったのかもしれない。

\*文化財保護協会顧問・宮岡正一郎さんみやおか しょういちろうから伺った話を、広報室がまとめました。